

支那大工

No.79 2022.6



公益社団法人

土木学会 関西支部

大阪・関西万博を契機としてまちづくりを！



支部長

東川 直正

国土交通省 近畿地方整備局長

本年度の土木学会関西支部長を仰せつかりました国土交通省近畿地方整備局の東川です。

私は、就職するまで大阪で育ちました。入省して33年経ちましたが、そのうち13年が近畿地方での勤務であり、関西に愛着を持っています。歴史と伝統のある関西支部の更なる発展に少しでも貢献できるよう頑張っ参りますのでよろしくお願いいたします。

さて、我が国の社会資本整備は、外国と比べ遅れています。例えば、高速道路のミッシングリンクも多く残り、開通済の高速道路を見ても、日本は約4割が2車線で、外国と比べて規格が低い状況です。港湾整備においても、大型船対応の16m以上のバース数は、アジア諸国（中国108、韓国40、シンガポール32等）と比べ、我が国は17と少ない状況です。

首都圏と比べても、関西はインフラ整備が遅れています。高速道路においては、首都圏で東京から国際空港がある千葉方面、神奈川方面ともに10車線が整備されています。一方、関西では、大阪から関西国際空港までは8車線ありますが、神戸方面へは途中から4車線しかなく、阪神高速3号神戸線の渋滞が全国でワースト1位となっています。

また、空港への乗り入れ鉄道線についても、成田空港へは3本ありますが、関西国際空港へは2本しかありません。

こういった中、2025年に大阪・関西万博が

あり、関西にとって、社会資本整備、民間投資とともに経済発展のチャンスです。万博イベントの後も使える社会資本を、万博に間に合うように造ることが基本です。

万博会場までの交通アクセスとして、大阪市と阪神高速道路株式会社が淀川左岸線2期の整備を進めています。工程的に完全な完成は間に合いませんが、新大阪駅から万博会場となる夢洲までシャトルバス専用のアクセスルートとして利用できるよう、工事を前倒しして整備を進めています。

また、淀川では、淀川大堰に新たに閘門を設け、淀川を使って京都方面から夢洲まで観光船が行き来できるよう整備を進めています。

その他、関西では、うめきた2期のまちびらき、なにわ筋線開業、リニア中央新幹線の開業など、民間投資も進んでいきます。

大阪・関西万博というように、万博に来た人が、大阪の万博会場だけでなく、関西各地に観光してもらう等の広がり重要です。そのためのハード整備も重要ですし、関西各地をどう結びつけていくか等、地域との連携が必要になります。

万博を一過性のイベントにしてはなりません。万博を契機に、大阪や関西の新たなまちづくりの長期的な計画の一步にしなければなりません。そのために社会資本整備がどうあるべきかを考えていくことが重要であり、例えば、産官学の有識者で組織する「関西のインフラ強化を進める会」においては、関西を日本のリーディングエリアとして発展させていくため、それに必要な社会インフラ整備や仕組み、地域連携のあり方等について、方向性を議論しています。

関西の発展に向けて、産官学が連携していくことも重要です。今年1年、重責を果たせるよう努力しますので、会員の皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。

「土木屋の一人として今のウクライナに思うこと」



副支部長
里深 好文
立命館大学理工学部 教授

ロシアによるウクライナ侵攻の報道が続いている。映像には社会インフラの破壊状況がはっきりと映し出され、困窮した市民の暗い表情が事態の深刻さを物語っている。Military engineeringと対極をなすCivil engineeringに関わってきた者として、戦局を有利にする目的で橋梁が破壊され、鉄道が爆破されることは耐えがたい。街と街をつなぎ、人と人を結ぶことを是として、時間をかけて構築されてきた公共物が、一部の人間の偏った判断により一瞬で破壊されてしまうことの虚しさを感じないではいられない。

私が中学生のころ数学を教わっていたベテラン教師は実に立派な方であった。当時のはのんびりしていたもので、授業の息抜きとして（演習問題の解答を生徒が黒板に書いている間などに）、ご自身の体験談を色々と話してくれた。彼は日本敗戦時にソ連の捕虜となったが、抑留された先が他ならぬウクライナであった。彼によればウクライナの民は「バカ」が付くほど正直でお人好しだったという。捕虜と市民が共に街の復興に汗を流し、言葉の通じない者同士が笑顔という世界共通語で交流した結果、解放されてウクライナを去る際にはある種の寂しさを感じたとも聞いた。30数年前に体験した辛い話を穏やかに語っていた恩師の姿を思い出すと、「戦争」と「復興」の対比が彼の心にどのように刻まれていたのか、平和な世の中で無駄に年だけ取った私には想像すらできない。未だこの争いの結末は予想できないが、はっきりしていることは戦後復興という大きな山をウクライナの人々がこれから登るということである。70数年前の我が国のように、傷ついた国土は修復されねばならない。我々の培ってきた技術があつた国の復興にも役立つことを願う。

不易流行



副支部長
畑中 克也
西日本旅客鉄道㈱ 技術理事 建設工事部長

関西支部とはこれまでも色々ご縁がありましたが、副支部長を拝命することになると思います。身を引き締まる思いです。

支部との関わりでは、幹事として参加させていただいた、支部80周年記念事業が印象に残るところです。当時は公共事業削減と土木バッシングの逆風下、「土木屋の「品格」は「品確（法）」から」と、土木の信頼回復に向けた提言等の発信に取り組みしました。支部長のリーダーシップのもと、学官産の第一線の方々が一堂に会した本音トークの場が速やかに整えられ、皆さんが進んで汗をかく姿に、支部の本領と土木屋の本心を見ました。汗をかいた後には必ず水分補給も欠かせず、大先輩から繰り返し「Military以外の全ての工学はCivil engineeringであり、将に将たる技術者を自覚せよ」との熱い薫陶を受け、自らが土木を選んだ初心を思い出し、元気が出ました。このような支部の伝統を今後も大切にしたいと思っています。

今は、デジタル技術の革新やコロナ禍を受け、働き方や暮らし方が急速に変化しています。何を堅持し、何を変革すべきか、不透明な将来に迷いを感じる一方で、従来は気づけなかった価値の新発見や、核心的に大切なものを再認識する実感もあり、未来への希望を感じます。安全で豊かな社会のため、土木の果たす役割は変わらず重要で、いっそう幅広くなっています。

令和を生きる土木技術者が、希望を持って技術に邁進し、プロジェクトに果敢にチャレンジする土壌を整えるために何ができるか。羅針盤となる情報の発信や交流を広げるための場づくり等、お手伝いができればと思っています。

1年間どうぞよろしくお願いいたします。



2021年度 技術賞

加須良川引水設備新設による既設境川発電所の発生電力量増加の取組み

関西電力株式会社 / 株式会社安藤・間

事業概要

<背景>

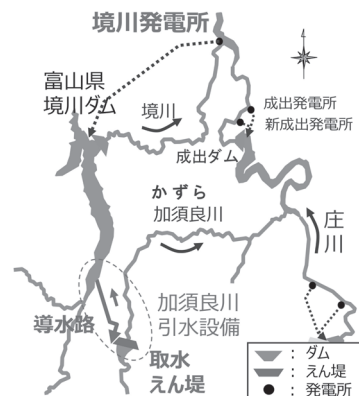
脱炭素化の潮流から、再生可能エネルギーの一つである水力発電の拡大が求められている。

<事業内容>

岐阜県から富山県に流れる庄川の支流である加須良川から、取水えん堤、導水路トンネルを介し、隣接する境川へ引水する設備を2016年～2019年に新設し、関西電力(株)の境川発電所における発生電力量の増加を図った。

<課題となっていた点>

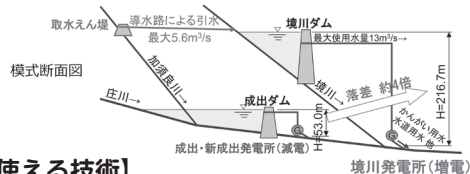
- 国内では既に水力開発が進んでおり、更なる水力発電の拡大を図るには、限られた自然条件である地形や河川流量、及び既設の水力発電設備を有効に活用することが課題である。
- 活断層近接により、導水路トンネル掘削にあたって地山脆弱性、湧水が懸念された。



技術の概要

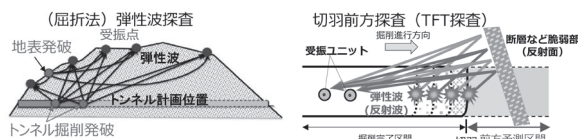
【新しい技術】

引水による既設水力発電所の発生電力量増加



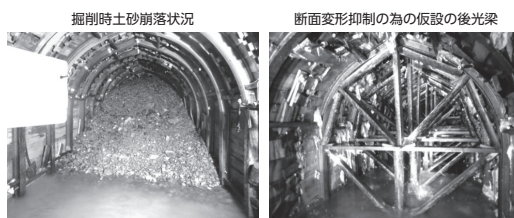
【使える技術】

- 取水えん堤 合理的設計/温度ひび割れ抑制
- 導水路トンネル掘削発破を用いた地質調査



【成し遂げた技術】

活断層近接に伴う地質不良状況下での導水路トンネル掘削

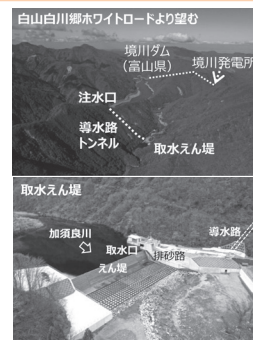


【喜ばれる技術】

立地地域の振興/希少動植物の保護

成果

- 取水えん堤：合理的な設計を実現
止水に対して有害なひび割れを発生させることなく施工完了
- 導水路トンネル地質調査：調査結果と地山状況の対応が確認され、トンネル掘削発破を用いた調査の有用性を確認
- 導水路トンネル掘削：トンネル坑内各所で、断面変形、土砂崩落、湧水が発生したが、地山不良部処理基準を準備して対応し、貫通
- 工事を通じて立地地域の振興、希少動植物の保護に寄与
- 2020年度には年間約14,000MWhの境川発電所の増電に貢献



2021年度 技術賞

田尻スカイブリッジ 陸・海・空にわたる斜張橋の大規模耐震補強

大阪府岸和田土木事務所 / 鹿島建設株式会社関西支店

事業概要

<背景>

広域緊急交通路である府道泉佐野岩出線に位置する田尻スカイブリッジは、平成6年に架設された2径間で国内最大級の斜張橋であり、耐震性能が不足しているため、耐震補強が必要であった。

<事業内容>

平成30年度から令和2年度にかけて、大阪府泉南郡田尻町において、交通量1日32,400台の道路上かつ橋の下の船舶航行を伴う中で、道路部(陸)の桁の補強、海に位置する橋脚の補強、空へ向かって伸びる主塔の補強を行った。

<課題となっていた点>

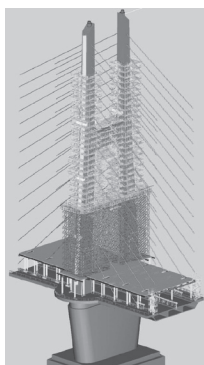
- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| ①足場と斜材及び検査路との干渉回避、主塔補強後のイメージング | ③高波による仮締切の損傷対策 |
| ②移動式吊り足場設置による主桁への損傷回避 | ⑤主塔足場設置期間中の荒天対策 |
| ④海底の地中障害物に対する鋼矢板打設方法 | ⑦広域緊急交通路の耐震化 |
| ⑥地域への貢献 | |



技術の概要

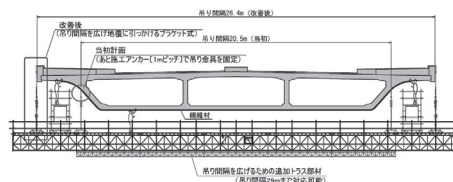
【新しい技術】

事前に主塔の点群データ測量を行い、3次元の立体モデルを作成し、足場を計画



【使える技術】

吊り間隔の拡大によるあと施工アンカーの回避



【成し遂げた技術】

硬質地盤クリア工法を併用した鋼矢板圧入
大規模足場設置期間中の
事前行動計画の策定



台風による通行止め実施判断

- ・風速44m/s以上の台風の暴風域が田尻町へ接近の可能性があるとき
- ・現地の風速の実測値が20m/sに達したとき
- ・ただし、台風の進路や実際の潮位や風雨の状況も把握し、職員等の安全確保の観点から現場出動及び作業を行わせるか否かも十分検討することが必要

台風による通行止め解除判断

- ・現地の風速の実測値が15m/sを下回り、パトロールによる安全確認後に交通開放

成果

- ・大規模足場では、既設構造物と足場の干渉を回避し、設置
 - ・載荷実験により、吊り間隔29mまで適用可能にし、移動吊足場の汎用性を拡大
 - ・仮締切では、引波の外側への引張を考慮した構造に見直し
 - ・厳しい条件を硬質地盤クリア工法により鋼矢板圧入を実現
 - ・事前行動計画を関係機関と共有し、備えとして体制構築
- 以上により、広域緊急交通路の府内主要道路橋約400橋の最後の耐震化を完成させることができた。また、地域のシンボルである田尻スカイブリッジのライトアップの試行を支援し貢献できた。



[illegible]

2021年度 技術賞

UAVの自律飛行による河道閉塞や砂防施設の調査・点検技術

国土交通省近畿地方整備局紀伊山系砂防事務所 / 国土交通省近畿地方整備局大規模土砂災害対策技術センター

事業概要

<背景>

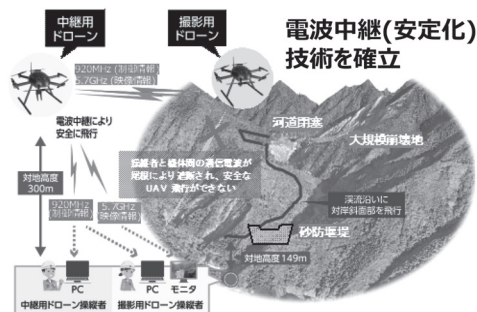
2011年の紀伊半島大水害により紀伊半島では斜面崩壊や河道閉塞と呼ばれる崩壊土砂が川をせき止める現象が多発した。このような場所は迅速かつ安全に調査する必要があるが、人の近接が困難あるいは危険であり、目視外からUAVを自律飛行させて調査・点検することが有効である。

<事業内容>

大規模崩壊地の奈良県十津川村栗平地区にて、操縦者から見えない場所までUAVを飛ばす目視外補助者なし飛行(レベル3飛行)の計画を立案し、航空局の許可を取得した上で、実証実験を行った。撮影用とは別に中継用のUAVを用意し、2機のUAVを組み合わせた電波中継を行うことで、通信電波の不安定化を解決した。

<課題となっていた点>

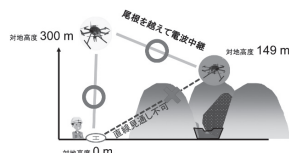
大規模崩壊に伴う河道閉塞が発生した栗平地区は、調査範囲が広く、現場への立入が危険なため、操縦者が見える範囲内でUAVを飛ばしても、十分な調査・点検が出来なかった。また、現場は険しい山岳地帯であり、電波が山に遮られ、UAV離発着地点から直線距離で約2km離れた崩壊地までは電波が届かない等、通信電波強度の不安定化が発生した。



技術の概要

【新しい技術】

2機のUAVを併用した通信電波中継により、通信電波強度の不安定化を解消。



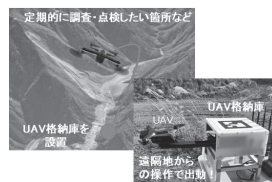
【使える技術】

UAV映像をリアルタイムで遠隔地に伝送し、現地状況を迅速に把握。



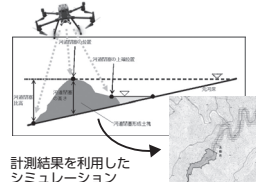
【使える技術】

UAV格納庫等を用いたレベル3飛行による危険箇所・施設の全自動点検化。



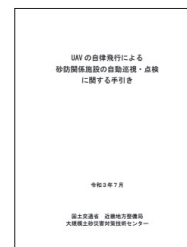
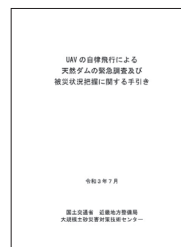
【喜ばれる技術】

従来までヘリコプターで実施していた河道閉塞の計測などの代替。



成果

- ①2機のUAVを組み合わせた電波中継技術を開発・導入したことで、通信電波の不安定化を解決し、安全に目視外飛行が可能となり、人間が現場に立ち入ることなく安全に、崩壊地や河道閉塞部の調査、砂防施設の点検を行うことができた。
- ②これまで人力で行っていた施設点検などの作業についてもレベル3飛行を応用することで効率化を図ることが可能となり、UAV利活用の可能性を大幅に広げる成果となった。
- ③これまでのUAVの自律飛行による崩壊地、河道閉塞の調査・監視や砂防施設点検の事業成果をマニュアルとして整理して公開した。
- ④防災やインフラ管理において、UAVのレベル3飛行による調査・点検は日本初の事例であった。



「UAVの自律飛行による天然ダムの緊急調査及び被災状況把握に関する手引き(令和3年7月改訂)」
「UAVの自律飛行による砂防関係施設の自動監視・点検に関する手引き(令和3年7月)」
(国土交通省 近畿地方整備局 大規模土砂災害対策技術センター HPにて公開中)

2021年度 技術賞部門賞（喜ばれる技術）

交差点改良を通した地下駅におけるバリアフリー化の実現

阪神電気鉄道株式会社

事業概要

<背景>

国土交通省が策定する「移動円滑化の促進に関する基本方針」に基づき、3,000人/日以上利用がある鉄軌道駅において段差解消（バリアフリー化）が求められていた。

<事業内容>

本事業では、神戸高速線西元町駅（以下「本駅」）において、交差点改良との同時施工によりバリアフリー化を実現し、2020年3月より各種設備の供用を開始した。

<課題となっていた点>

本駅は県道直下に建設された駅であるが、地上部出入口付近にエレベーターが設置可能な社有地が無く、新たな用地取得も困難であり、永らくバリアフリー化が困難な状況にあった。



技術の概要

【使える技術】

通常であれば地上階～改札階に1基、改札階～各ホーム階に1基ずつの計3基のエレベーターを設置するのに対し、本工事では地上階から下りホーム階を貫通する改札内外兼用エレベーターを1基設置することで、狭小な地下空間等におけるスペースの活用を行った。

【成し遂げた技術】

地上部出入口付近には社有地が無く、また用地取得も困難であったことから、歩道上にエレベーターを設置する以外になかったが、その位置でも横断歩道と支障していたため、管理者に対し交差点改良の同時施工を提案することで、エレベーターの設置を可能にした。

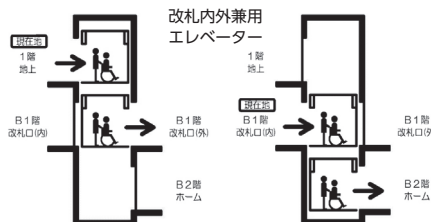
【喜ばれる技術】

本事業は、歩道通行を阻害することなく、また横断歩道の移設並びに信号機の移設により交差点の安全性向上に繋げるなど、道路管理者および交通管理者と鉄道事業者がwin-winの関係になるよう配慮し困難と思われた課題を解決できた事案である。

本駅周辺には多数の集合住宅が立地しており、近年人口が増加する地区になっている。また神戸元町商店街や病院もあり、増加する付近住民に加え、医療施設及び商業施設を訪問する方々にとって喜ばれる技術であった。設置後、エレベーターの利用者は順調に増加しており、本駅を利用されるお客様にとってもバリアフリー化は待ち望んだものであったことが強く伺える。

成果

エレベーターの設置により、本駅を利用されるお客様の移動円滑化を実現することができた。また、同時施工した交差点改良においては、コンパクトな交差点の実現に貢献したほか、信号機の移設等を通して当該交差点の安全性向上にも寄与することができた。



日本最古のため池である狭山池クリーンアクション

【応募者】狭山池まつり実行委員会

【主な活動地】大阪府大阪狭山市

大阪狭山市のシンボルである狭山池は行基が作ったとされる「ため池」で、平成の大改修を経て、2002年4月に狭山池ダムとして生まれ変わりました。ダム建設工事中に発掘されたコウヤマキの樋管が年輪年代測定法により616年に伐採されたことが判明し、現存する日本最古のダム式ため池となりました。

狭山池クリーンアクションの活動は、ダム完成直後の2002年7月から主に毎月第4土曜日に実施され、2022年1月の時点で計255回実施しました。2004年からは、歴史的ダム保全事業により建設された大阪府立狭山池博物館の水庭清掃も毎年8月に実施しています。2019年10月の第227回はFM大阪が実施しているクリーンキャンペーンとのコラボレーションにより、500名規模の大規模な清掃活動も実施しました。さらに、2020年10月に実施した第240回では、狭山池博物館開館20周年記念のオープニングイベントに位置付けられ、初めて狭山池にキッチンカーを導入した社会実験と連携するなど、地域の他のイベントとも連携を進めてきました。

コロナ禍の影響で、2020年4月には緊急事態宣言発令に伴い初めて清掃活動の中止を余儀なくされましたが、翌月からは、感染症対策を取りながら、毎月清掃活動を継続しています。主催者だけでなく、周辺の団体（ボーイスカウト、大阪府立狭山高等学校、大阪狭山キジムナーの会、さやま未来プランナー）等にも広く協力を依頼し、各回とも50～200名規模の清掃活動

を行っています。これらの活動は、2015年に国史跡に指定された歴史ある狭山池の景観の保全にも貢献するものです。



■清掃活動の様子 その1



■清掃活動の様子 その2



■狭山池で初めて実施されたキッチンカー社会実験の様子

御堂筋サイクルピクニック

【応募者】自転車文化タウンづくりの会

【主な活動地】大阪府大阪市

歩行者も自転車も安心して通行できる環境づくりを、自転車ユーザー側から求めるために2011年から「御堂筋サイクルピクニック」を始めました。約300台の自転車で、中之島から御堂筋→本町通→大阪城→中之島（1周約6km）を走行し、「ちゃんと走ろう!」「もっと自転車レーンをつくって欲しい!」をアピールしています。また、「自転車レーンをつくって欲しい!」だけでなく、自転車が本来走るべき「車道」を走行することを通じて、自転車マナーの啓発も行い、10,000人で御堂筋を走ることを目指して活動を続けています。

御堂筋サイクルピクニックの活動は、2011年10月を皮切りに計16回実施してきました。2021年9月の時点で、アピール走行の参加者はのべ2,754名にのぼり、イベント来場者は約6,600名となりました。また、3回目からは、ヨーロッパモビリティウィーク・カーフリーデー（9月22日）に合わせたイベントとして登録し、開催しています。例年、広く自転車に関するルールや楽しみ方を提供する啓発コーナーを設置し、さまざまな形や機能の付いた自転車の体験・試乗コーナー、バスやトラックの死角体験、子供自転車教室、サイクルサッカー、サイクル・マーケット&ランチコーナーの設置などを行い、自転車の魅力を広くアピールしています。2020年以降は感染症対策を行ったうえで、「新しい生活様式に対応した自転車インフラ整備を!～大阪サイクルモデルの提案～」と題した展示ブースを設置するなど、コロナ禍でも工夫を重ねて活動を継続しています。

御堂筋サイクルピクニックを企画・運営しているのは、様々な肩書をもったボランティアで

す。この活動は「自転車利用から、自転車を使ったみちやまちづくりをポジティブに提案する」ことを目的としたものであり、このような趣旨に賛同する企業やボランティアの協力のもと、改善点を見直ししながら規模を拡大しつつ活動しています。



■御堂筋を自転車で走行する参加者



サイクルピクニック

御堂筋サイクルピクニックは、私たち自転車ユーザー側から「歩行者も自転車も安心して通行できる環境づくり」を求めるために始まりました。そして「ちゃんと走ろう!」「もっと自転車レーンをつくって欲しい!」を訴えるために始まりました。私たちはこのアピールを通じて、自転車マナーの啓発も行い、10,000人で御堂筋を走ることを目指しています。

「御堂筋サイクルピクニック」も今年で第14回を迎えます。今年も様々な企画・イベントを行い、自転車文化タウンづくりの会、大阪サイクルモデルの提案、展示ブースの設置など、コロナ禍でも工夫を重ねて活動を継続しています。

アピール走行

10:30-12:00 参加費無料

御堂筋を自転車で走行し、歩行者も自転車も安心して通行できる環境づくりを訴えるための活動です。

自転車試乗会

12:00-15:00

御堂筋を自転車で走行し、歩行者も自転車も安心して通行できる環境づくりを訴えるための活動です。

トラックからの死角体験

12:30-14:00

歩行者や自転車からトラックの死角を体験し、安全運転の重要性を学ぶための活動です。

サイクルサッカー

12:00-13:00

自転車に乗ったままサッカーを楽しむための活動です。

サイクルフィギュア

13:00-13:15 / 14:15-14:30

自転車に乗ったままフィギュアスケートを楽しむための活動です。

交通安全トークショー

13:15-13:45

交通安全に関する講話や質問応答を行うための活動です。

えほんマップ

10:00-15:00

子供向けの自転車に関する絵本やマップを配布するための活動です。

■2019年第14回報告書

木材利用に関する調査・研究、普及・啓発活動

【応募者】 福井県木材利用研究会

【主な活動地】 福井県福井市

地球温暖化の緩和、土砂災害の防止、水源の涵養、生物多様性の保存、木材生産など、森林は環境保全に極めて大きい役割を果たしています。戦後、大量に造成された人工林は伐採時期を迎えており、『伐採→利用→植林→育成→伐採』というサイクルで森林を適切に管理することで、環境保全が実現します。すなわち、土木、建築、バイオマスの各分野において木材利用拡大を図ることが、一連のサイクルを回すうえで大きな原動力となります。

『福井県木材利用研究会』はこの期待に応えるため、2010年に発足した任意団体です。とくに建設事業における木材利用に関する調査・研究、普及・啓発活動、関係者の連携・協調の促進を目的として、様々な活動を行ってきました。例えば、定例研究会は2カ月に1回実施し、福井県の県内外で木材利用に取り組んでいる方々の活動や研究の講演と意見交換・交流を行っています。また、見学会では、木材を利用した構造物や建設現場、木材加工場などの見学を行ってきました。さらに、分科会も定期的の実施し、土木系、建築系、バイオマス・安定供給の3つの分科会が研究開発を進めてきました。これらの取り組みを、地域の一般市民、小中学生、技術者にも広めるために講習会やイベントも実施しています。近年では、2019年10月に木材の安定供給に関する提言書を公開、2021年11月には木材利用シンポジウムin福井を開催しました。

この研究会は、産業界、学校関係者、官公庁

など土木系、建築系、バイオマス・安定供給系に関心を持つメンバー計60名程度で構成されています。これまでの活動は、ウェブサイト(<http://toshichan.be.fukui-nct.ac.jp/yoshida/mokuzai/>)で情報発信するとともに、研究成果は学術講演会や学術雑誌でも公表しています。



■親子で学ぶ木材利用セミナー 伐採見学



■「丸太杭工法を用いた軟弱地盤対策の設計・施工マニュアル」講習会



■木材利用シンポジウムin福井 講師と実行委員の集合写真

支部役員（2022年6月2日開催 第1回全体幹事会時点）

支部長	東川 直正（国土交通省）		
副支部長	里深 好文（立命館大学）	畑中 克也（西日本旅客鉄道株）	
商議員	飯田 章（株日本インシーク）	池羽 邦佳（いであ株）	上田 英則（兵庫県）
	上原 修二（国土交通省）	植松 知也（近畿日本鉄道株）	渦岡 良介（京都大学）
	内山 雄介（神戸大学）	大西 俊輔（大阪ガス株）	岡田 浩樹（大成建設株）
	小川 圭一（立命館大学）	小田 宏一（京都市）	鎌田 敏郎（大阪大学）
	川崎 哲人（株竹中土木）	岸田 潔（京都大学）	北詰 恵一（関西大学）
	久保田裕二（神戸市）	桑場 功（京都府）	上月 健司（株大林組）
	杉崎 直哉（株北摂コミュニティ開発センター）	高橋 亮一（西日本旅客鉄道株）	滝波 栄治（福井県）
	丹波 寛夫（阪神高速技研株）	豊口 佳之（国土交通省）	中安 義顕（オリエンタル白石株）
	鍋島 寛之（大阪市高速電気軌道株）	新納 格（大阪公立大学工業高等専門学校）	原田 典佳（日本製鉄株）
	春山 真徳（佐藤工業株）	東 正人（和歌山県）	東山 浩士（近畿大学）
	平田 大（阪急電鉄株）	平野 剛（大阪府）	福富 章（西日本高速道路株）
	福永 勲（本州四国連絡高速道路株）	藤本 義輝（滋賀県）	松井 光市（関西エアポート株）
	宮下 英明（日本ファブテック株）	安井 広之（奈良県）	梁田 信河（八千代エンジニアリング株）
	山内 良太（株日建技術コンサルタント）	山路 智志（堺市）	山田 卓（大阪公立大学）
	山向 薫（大阪市）		
監査役	石本 栄二（関西電力株）	寺本 譲（大阪市）	
副会長・理事	楠見 晴重（関西大学）		
理事	勝見 武（京都大学）	兼塚 卓也（中央復建コンサルタンツ株）	塩谷 智弘（株大阪メトロサービス）
監事	前 邦彦（西日本高速道路メンテナンス関西株）		
幹事長	勝見 武（京都大学）		
幹 事	荒木 進歩（大阪大学）	安藤 元（関西電力株）	稲垣 貴広（八千代エンジニアリング株）
	井上 真也（京都府）	牛若 健吾（神戸市）	○大西 正光（京都大学）
	押川 光宏（株大林組）	片山 裕己（阪急電鉄株）	河村 昌克（大阪府）
	北尾 朋大（株鴻池組）	◎葛谷 武司（阪神高速道路株）	蔵下 一幸（株オリエンタルコンサルタンツ）
	小塚みすず（神戸市立工業高等専門学校）	○小林 泰三（立命館大学）	佐々木 亮（JFEエンジニアリング株）
	佐山 敬洋（京都大学）	◎山上 路生（京都大学）	高田 雄大（JFEスチール株）
	高野 保英（近畿大学）	高橋 卓也（西松建設株）	橘 伸也（神戸大学）
	壺井 克弥（滋賀県）	寺口 貴康（西日本旅客鉄道株）	西村 正生（株熊谷組）
	深海 未歩（大阪市高速電気軌道株）	松林 清志（国土交通省）	○松本大二郎（西日本高速道路株）
	八幡 徳昌（オリエンタル白石株）	山田 真寛（パンフィックコンサルタンツ株）	山森 誠史（株エイト日本技術開発）
	吉栖 雅人（兵庫県）	◎吉矢理恵子（大阪市）	米森 一貴（国土交通省）
	涌本 真由（関西エアポート株）		
FCC 代表	入江 政安（大阪大学）	副代表 宇野 宏司（神戸市立工業高等専門学校）	副代表 金澤 佑樹（大阪モノレール株）
副代表	澤村 康生（京都大学）	副代表 中野 陽介（鹿島建設株）	副代表 丹羽 信弘（中央復建コンサルタンツ株）
副代表	二見 秀司（新三和生コン株）		

◎ = 主査 ○ = 副査

■今後の支部事業スケジュール

土木学会関西支部では、様々な行事を計画しています。

なお、下記の予定は変更・中止になる場合がありますので、支部ウェブサイト (<https://www.jsce-kansai.net/>) 等をご確認ください。

これからの行事など

(🧠=継続教育プログラム対象)

■講演会・講習会・研修会など

●大規模土木プロジェクト実地研修

(8月31日～9月2日 淀川左岸線2期建設事務所 他)

●第36回コンクリート構造の設計・施工・維持管理の基 本に関する研修会 🧠

(11月29日～30日 ハイブリッド開催(御堂会館&オンライン))

●メンテナンス技術者講習会 🧠

(11月予定 オンライン開催)

●技術賞候補発表会 🧠

(12月予定)

●高専学生対象講演会

(時期未定)

●2023年度技術士試験対策講習会 🧠

(2023年4月予定 ハイブリッド開催(予定))

■市民参加行事

●小中高生対象見学会

「地下に駅をつくる工事を見てみよう！」

(7月2日 うめきた地下駅工事)

●小中学生対象夏休み土木実験教室

「土砂崩れを防ごう！」

(7月30日 オンライン開催)

●ぶら・土木

(年数回)

■「土木の日」関連行事

●「土木の日」ポスター募集

土木が支えるみんなのくらし

～まち・道・鉄道・港・エネルギー～

(～9月5日)

●どぼくカフェ

(年数回)

●FCCフォーラム

(11月予定)

■その他

●教員研修

(8月9日、17日、26日、30日 兵庫教育大学 他)

●地域活動賞候補募集

(～10月1日)

●技術賞候補募集

(～10月3日)

●建設技術展2022近畿 🧠

(11月9日～10日 インテックス大阪)

[支部企画行事]

土木実験・プレゼン大会、ポスター発表など

土木学会関西支部はFacebookでも情報を発信しています。

<https://www.facebook.com/jscekc>



いいね! をしてね!

事務局職員
事務局長 谷 ちとせ
職員 町田めぐみ
職員 折井 麻紀

支部だより79号
2022年6月27日発行(年1回発行)
発行/(公社)土木学会関西支部
編集/関西支部総務・事業支援幹事会
広報担当幹事
印刷/(株)小西印刷所

2021年度

「土木の日」ポスター審査報告・入選作品

わたしの身近にある土木 ～まち・道路・鉄道・港・エネルギー～

土木の日
DOBOKU DAY
NOVEMBER 18

最優秀賞

大阪市立加美小学校
北野 杏句さん



優秀賞



子供部門

矢野 翔悟さん

一般部門

古田 みのりさん

入選

一般部門 大阪市立工芸高等学校
岡野 空莉さん



一般部門 大村 泰史さん



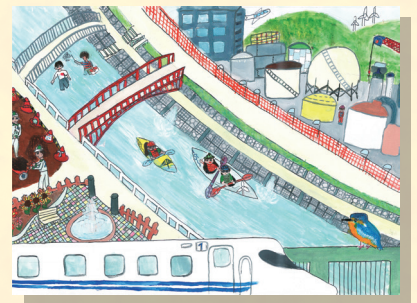
一般部門 中村 敬子さん



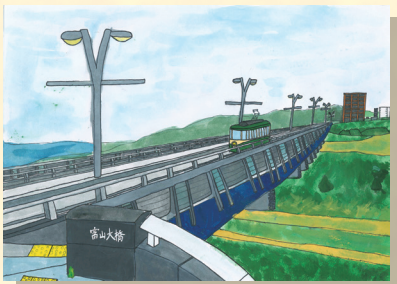
子供部門 谷口 怜矢さん



子供部門 箕面市立西南小学校
北村 知奈さん



子供部門 魚津市立経田小学校
岩崎 有牙さん



子供部門

綾部市立綾部小学校
小畑 歩々さん



■2021年度「土木の日」ポスター



関西支部では、土木の日関連行事を広く市民の方に知っていただくために、関連団体と連携し土木の日ポスターを一般公募しています。公募は、学会誌やホームページへの掲載、関西地区の土木学会員や小・中学校及び高等学校等への案内により行いました。

その結果、子供部門(小学生以下)187作品、一般部門(中学生以上)127作品の応募があり、その中から、土木の日関連行事関西地区連絡会の委員による厳正な審査の結果、入選作品が決定いたしました。

過去の作品も土木学会関西支部ウェブサイトで見ることができますので一度、アクセスしてみてください。

<https://www.jsce-kansai.net/?p=4600>

公益社団法人土木学会関西支部

「コンクリート構造の設計・施工・維持管理の基本」テキスト紹介



本書は、2017年および2018年のコンクリート標準示方書の改訂を受け、2019年に内容の見直しを行ったテキストになります。

コンクリート標準示方書の設計、施工、維持管理編の内容が1冊でコンパクトにまとめられており、更に、設計・施工・維持管理の連携と生産性向上を意識した記述を心掛けております。

このテキストは、コンクリート構造の設計、施工、維持管理に携わる若手技術者への入門書となり、また現場実務者への参考書ともなる、わかりやすく内容の濃いものとなっております。

書名：第6次改訂版
コンクリート構造の設計・施工・維持管理の基本
発行年度：令和元年 / 価格：7,000円

※本テキストを用いた研修会を2022年11月29日、30日に開催予定です。

こちらは、2012年および2013年のコンクリート標準示方書改訂時に作成した旧テキストになりますが、若手技術者の学習用の資料としては、優れたテキストとして活用できます。

送料はご負担いただきますが、テキスト代は無料にて配布させていただきます。

書名：第5次改訂版
コンクリート構造の設計・施工・維持管理の基本
発行年度：平成26年 / 価格：無料



上記テキストをご希望の方は、土木学会関西支部WEBサイトに掲載の注文書に、必要事項をご記入のうえ、お申し込みください。(送料は、ご注文一回につき「全国一律610円」です。)

【注文書のページ】

https://www.jsce-kansai.net/wp-content/uploads/2019/04/jscekc_books.pdf#page=2



編集・発行



公益社団法人

土木学会 関西支部

〒541-0055

大阪市中央区船場中央2丁目1番4-409号

TEL.06-6271-6686 FAX.06-6271-6485

URL : <https://www.jsce-kansai.net/>